

## 【南郷地区】

# 「人・農地プラン」第1回地域懇談会概要

■ 開催日時等 令和3年12月3日 午後7時から 南郷公民館

■ 参加者数 25人

## ■ 概要

1 「人・農地プラン」及びアンケート結果の説明

2 ワーキング・グループ（3班）による討議

### ◆地域の課題

#### 担 手

- 後継者不在、担い手不足、老後の預け先をどうするか。
- 担い手は高齢化し体力がなくなっており、また若い営農者がいない。
- 担い手への貸出しは、地元の担い手候補とすべき。
- 米作のノウハウがなく、営農指導が不十分
- 若者への体験実務が必要
- 組織を立ち上げるにも資金がない。
- 自営では自立は不可能であり、若者が農業で自立できるような企業が必要

#### 農地・水

- 狭い農地が多く、耕地面積の拡大（10a以上）、ほ場整備により集団化する。
- 水利が悪い。
- 遊休農地化は政府の政策であり、これに準じてのアンケート回答と内容を想定していくことが農地の進展につながる。
- 休耕地管理の組織化
- 大雨時のゲート操作や水管理をもっと楽にしたい。
- 土地売却を考えても安価
- 自主管理する自信がない。

#### 営 農

- 米価が安く、反当たりの収入が少ない。農機具の償却等を含めると完全な赤字
- 3反程度の面積では収入を得られなく、米作りの労力と収入が見合わない。
- 収益価値が低い作物しか作付けされていない。また、土地柄、野菜は作りにくい。
- 農業資材が高い、また農機具が高く買い換えできない。そして融資が受けられず、農機具を揃える資金がない。農機具を所有していない。
- 農機具の共同利用は、機械管理が不行き届きになる。
- 土日農業なので、共同ではやりにくい。
- 農地を放棄できないので、耕作している。
- 役員になるのは大変
- JAで営農組合を設立
- 集団の農業経営を法人化する。
- （食糧管理）法が廃止され、米価決定の場がなく、そのことで価格低下になっている。
- 農業を止めた後の農機具の処分

#### 環 境

- 地球温暖化の影響、高温障害
- 自然災害の多発

## その他

- 農業に魅力がない、魅力ある農業を
- ヒノヒカリのPR、ブランド米化
- 農業施策の年単位の工程や計画はどうなっているか。
- 各種農業政策の提示、町の政策提示がない。
- 人・農地プランの内容を説明し、施策の具体的な説明がほしい。
- 米食の促進や教育が重要
- 新住民とのトラブル

## ◆現状と将来の農業者等

### 現 状

- 自作し、個人で守っている。
- 知人に預けて、耕作してもらっている。
- 個人で預かっている。
- 有志が助け合っている。
- 放棄地

### 将 来

- 高齢者が多くなる。
- 自作
- 子供に委ねる。
- 担い手に委託や集約
- 集落営農組織に委託
- 大字や農家組織で経営する組合、または全農地を集約した法人組織で経営
- 企業で営農
- 預かってもらえれば誰でもよい。
- 育てた人が作っていく。
- ファーム（農園）を作る程の面積が確保できない。
- 農業だけでは自立できず、兼業でしか農地を守れない。
- 5年、10年先の予想はできない。
- 問題ない。
- 売却する、宅地化して貸し出すなど活用する。